

平成28年度

学校自己評価報告書

平成29年4月

学校法人日本コンピュータ学園

東北保健医療専門学校

## ■平成28年度 学校自己評価について

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校は、東北における介護・医療・福祉の専門職を養成する教育機関として、平成23年に開校し、病院・施設・地域との連携を強化し、職業実践的な教育により、業界の最前線で活躍できる医療福祉従事者の育成を目指しております。

本校では、開校以来独自の評価項目に基づき、学校自己評価に取り組んでおります。さらに、平成24年度からは、より良い自己評価を目指して、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行い、現状・課題の把握ならびに改善策の検討・実施を行っております。また、評価にあたっては、教員の自己評価、学生アンケートなども踏まえて行っております。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

### 1、対象期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

### 2、実施方法

- (1) 学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っております。

委員会構成：委員長 校長  
委員 法人事務局部長、就職センター部長、進学相談室室長  
教務部長、教務課長、総務課長代理

- (2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行います。

### 3、自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目を実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

### 4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

評価 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

## ■基準1 教育理念・目的

### 教育理念

1. 基本的資質の修養  
品性を磨き、自己の人格形成に努めること
2. 知識と技術の体得  
理解を伴った正確な技術の訓練を継続すること
3. 調和のとれた心の鍛錬  
心の平静を保ち、前向きな姿勢で取り組めること

#### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校における職業教育の特色を示しているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### (2) 状況および課題と改善策

- a.b. 理念、目的、育成人材像は明確に定められ、職業教育の特色も学科ごとに示し、パンフレットやホームページなどで広く周知している。
- c.e. 職業実践専門課程の教育課程編成委員会にて、外部有識者の委員からいただいた意見を踏まえ、業界のニーズに即した教育方針、教育目標、育成人材像を構築している。今年度の取り組みとしては、介護福祉科の留学生受け入れ準備や歯科衛生科の新設を計画している。
- d. 教育理念や育成人材像等について、学生へはオリエンテーションやホームルーム等で周知している。保護者にはホームページへの掲載により周知している。

## ■基準2 学校運営

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
c	運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する制度は整備されているか	3
e	各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### (2) 状況および課題と改善策

- a.b. 年度初めに学校評価及び事業計画に基づき、学校運営方針、目標を策定し、教職員会議等を通じて周知、見直しを行っている。
- c.e. 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間での意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。
- d. 人事、給与に関しては、法律改正に合わせた見直しを適宜実施し、整備している。次年度については勤務体系の見直し等、検討を進めている。
- f. 基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- g. カリキュラムや国家試験対策などの課外授業については入学案内書やホームページで公開している。また、職業実践専門課程の認定学科として教育活動に関する基本情報は文部科学省の指定様式にてホームページで公表している。
- h. 情報システム化を積極的に取り入れ、運用している。今後もより有効かつ利用しやすい環境整備を図っていく。

## ■基準3 教育活動

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている	4

b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
g	企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか	4
h	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
i	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
j	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	3
m	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

(2) 状況および課題と改善策

- a. 教育理念・人材育成像に沿って、教育課程を編成している。また、全学科において、教育課程編成委員会の外部有識者から意見をいただき、教育目標や教育内容、カリキュラムの検討を進めている。
- b. 学科ごとに、2年・3年課程を考慮し、一般的に到達可能なレベルとして目標を明確にしている。また、就職後も自主的に行動できるよう、教育内容を吟味したうえで指導している。
- c. 各学科とも、規定及び資格取得に必要な条件に基づき、カリキュラムは体系的に編成されている。
- d.e. 学科ごとに企業や業界団体等が参画した教育課程編成委員会を設置しており、企業や業界の意見を参考にしながら、実践的な職業教育の視点からカリキュラムや教育方法を検討、作成している。

- f.g. 医療機関・介護老人保健施設等と連携を深め、可能な限り実技・実習でより実践的な能力を修得できるようにしている。次年度からは、医療秘書科・医療情報管理科もインターンシップとして見学実習を開始する。
- h. 授業評価は、学生からの授業アンケート、教員の自己評価、管理職による授業評価を行っており、それらを総合して評価する体制を整え毎年実施している。
- i. 成績評価の基準は、全体的な基準は細則に、科目ごとの基準はシラバスに明記されており、それに従って運用している。
- j. 資格取得については、担当教員や担任が連携し、指導している。引き続き、カリキュラム及び教育内容を検討し、資格取得の向上に努めていく。
- k. 教員の採用に関しては、設置基準の規定及び人物・専門的な能力等の必要な要件を確認した上で採用している。
- l. 教員の研修については、専門分野の最新技術・知識の修得や指導力向上のための研修を必要に応じて実施している。
- m. 職員の研修については、研修内容について検討し、今後のキャリアアップの観点から研修計画を策定していく。

#### ■基準4 学修成果

##### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	3
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

##### (2) 状況および課題と改善策

- a. 就職については、担任と就職センターが連携し、学生への早期意識づけを行い、きめ細かな支援を行っている。
- b. 試験範囲や出題傾向の分析を実施し、国家試験対策の指導體制は整備している。医療秘書科・医療情報管理科については、今後も難易度の高い医師事務作業補助技能審査試験等、資格取得率の向上を目指し、教育内容や教育体制を検討していく。

- c. 退学については、学生サポート室を設け担任と連携して退学防止に努めている。また、メンタル面で問題を抱える学生が増加しているため、カウンセラーを配置して対応している。学生が多様化する中、その対応についてはさらなる支援策を検討する。
- d.e. 卒業生とは来校した際に情報交換し、個別に状況を把握している。引き続き、卒業生の就職先等、医療機関と連携し、卒業生のキャリア形成の現状を把握する取組を継続して進めていく。

## ■基準5 学生支援

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生への支援体制はあるか	3
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### (2) 状況および課題と改善策

- a. 就職については、就職センターとして専任の職員を配置し、独自に開発した「就職支援プログラム」の下、担任と就職センターが連携して計画的に指導を行っている。
- b. 学生からの相談は、困りごとの相談から学習、健康、メンタル、生活といった面まで多様である。本校では、学生サポート室を設けて相談員、看護師、カウンセラーを配置しており、担任と連携して各種の相談に乗っている。
- c. 特別奨学金、試験特待生、資格特待生、学費の分割納入など、いろいろな側面から経済的に支援する学校独自の制度を整備している。また、日本学生支援機構奨学金や各種の公的奨学金、民間奨学金の積極的な紹介や円滑な事務を心掛けて学生を支援している。
- d. 保健室には看護師が常勤しており日常的な健康管理、支援を行っている。必要な場合は学校医と連携して適切な対応ができている。また、カウンセラーも配置してメン

タル面の相談もできる体制を取っている。

- e. 課外活動として、スポーツ大会、レクリエーション、希望者によるボランティア活動等、多岐にわたって支援している。
- f. 学生寮をはじめ、校内にはメディアセンター、食堂、売店、就職センター、保健室、学生相談室、自習室などを備え、適宜個別の相談を実施するなど、快適な学生生活を送れるよう指導している。
- g. 学生が主体的に学習できるよう、保護者とは早期に連絡・相談し協力体制を築いており、今後も連携を継続していく。
- h. 卒業生からの要望や意見などを踏まえ、卒業生に各種情報を提供する仕組み等、卒業生支援について今後検討していく。
- i. 教育環境については、社会、産業界で必要とされるものを念頭に整備している。近年では、学生全員への iPad の配布、校内全域の無線 LAN 設置、eラーニングの導入運用等を行うなど学習支援環境を常に改善している。
- j. 「平成 28 年度宮城県介護従事者確保対策事業」として福祉介護体験講座を実施し、各地で相談会を開催した。今後も各教育機関と連携した取り組みを推進していく。

## ■基準 6 教育環境

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
b	学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか	3
c	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
d	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

### (2) 状況および課題と改善策

- a. 実習用設備は毎年学科ごとに見直しを行い、必要な設備および予算の最適配分を検討した上で導入しており、教育上の必要性に十分対応できている。また、全学生への iPad の配布、eラーニングの推進、校舎全館の Wi-Fi 化など学習支援環境の整備にも力を入れている。
- b. 医療機関・介護老人保健施設等と連携を深め、可能な限り実技・実習でより実践的な能力を修得できるようにしている。引き続き、全学科における実習施設の整備および実践的な職業教育の体制づくりに努めていく。

- c. 学生が自主的に学習するスペースとしてメディアセンターを整備し、自習、図書の貸し出し、パソコンの利用、マイクロソフト社のOVS-E S（教育機関向けライセンスプログラム）のサービスなど学生への学習支援の多目的スペースとなっている。また、eラーニング環境も整えており、学生は学内外での復習・自習に活用している。
- d. 防災マニュアル、緊急避難時の連絡体制は整備されている。避難経路も周知しており、消防法で必要な設備は整っている。防災に関する取り組みとして、年に2回定期的に防災訓練を実施しており、実施前に事前打合せ、実施後に反省会を行って、訓練の徹底と改善を図っている。そのうちの1回は地震に対する訓練も同時に行っている。防犯体制については、防犯マニュアルを準備し、防災センター職員が日中2回巡回パトロールを実施している。

## ■基準7 学生の受け入れ募集

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学生募集活動は、適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

### (2) 状況および課題と改善策

- a. 学生の募集広報活動における内容や説明表現については、学校の実績を基に、真実性、透明性、公平性、法令遵守において、担当の広報事業部が十分な注意を払うとともに、入学希望者に対して適切な判断材料を提供できるよう配慮している。春のオープンキャンパスでは、仕事理解を中心とする「お仕事体験フェスタ」を実施し、参加者の満足度も高い結果となった。今後も入学希望者に対して適切な入学情報を提供していく。
- b. 本校の教育内容、成果を十分理解できるように「入学案内」や「ホームページ」、「学校見学会」、「体験入学会」、「オープンキャンパス」などで詳細に説明している。また、教育成果である教育実績、就職状況、資格取得状況なども合わせて説明しており、積極的に公開もしている。
- c. 学納金は、各学科における入学金、授業料、実習費等について、教育内容や教育環境に照らし妥当な額を教務部、総務部など関係する部門で協議した後、評議員会に諮り、理事会において決定している。学納金の決定に際しては、参考として他校の学費水準も把握した上で行っている。

## ■基準 8 財務

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

### (2) 状況および課題と改善策

- a. 財務諸表の通り、学園の財務基盤は安定している。今後も、学生数の確保を図り、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めていく。
- b. 事業年度開始に当たって作成する予算に対し適宜補正予算を組むなど、予算の編成及び執行は適正に実施している。
- c. 会計監査は、関連法規により、公認会計士及び監事により適正に行われている。
- d. 財務情報については、事務局に決算書類等の帳票を備え付けるとともにホームページに「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」を公開している。

## ■基準 9 法令等の遵守

### (1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

### (2) 状況および課題と改善策

- a. 法令や設置基準の遵守については適正に行っている。また、法令等による指定学科についても、その指定基準ならびに改正点等に適正に対応している。
- b. 個人情報の保護については、「個人情報の保護に関する規則」、「個人情報保護に関する細則」、「個人情報保護管理に関する運用基準」を定め、教職員へ周知し、遵守している。今後もより一層対策を強化していく。

- c. 自己評価については、「学校自己評価委員会」を組織し、定期的な評価を通して問題点を明らかにするとともに、その対策および改善案を検討し、財政的、人的資源の最適配分を考慮して実施している。
- d. 自己評価結果については、「学校自己評価報告書」としてホームページ上に公開している。

■基準 10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 理学療法士、作業療法士に関連する団体が開催する研修会の支援、会場の貸し出しを行っている。
- b. 関係団体からボランティアの要請があった際は、学校として積極的に学生に適宜紹介し、活動参加にあたっては推奨・協力している。例としては、車椅子テニスの大会運営補助、各病院施設のお祭りやシルバーセンターでの催し物などに参加している。
- c. 「平成 28 年度宮城県介護従事者確保対策事業」として、中学校、高校等を訪問し、介護の仕事の魅力を伝達し、将来的に介護の仕事を選択してもらえるよう相談、助言、指導などを行っている。イベントとしては、小学生を対象を広げ、福祉介護体験講座を開講し、福祉・介護の仕事の大切さと魅力を伝えている。

以上

---

学校法人日本コンピュータ学園      東北保健医療専門学校

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 3 番 1 号

---